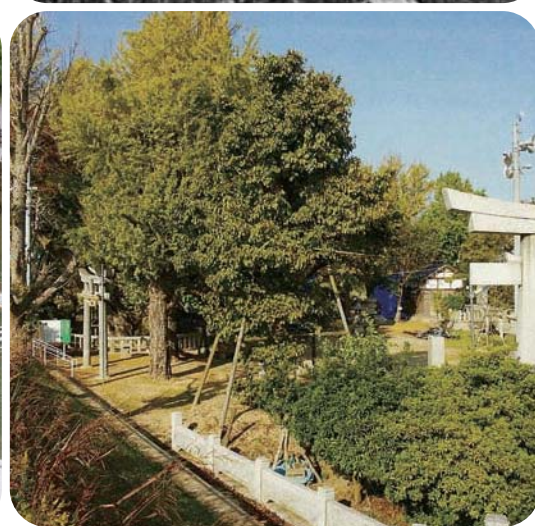


—川のことを学んで、ふるさとの未来について考えよう—

# わたしたちの遠賀川



## はじめに

遠賀川下流域河川環境教育研究会(以下「研究会」という)は、総合学習を効果的に行うための「情報提供および収集・人材育成・ネットワークづくり」を目的として、平成19年(2007年)1月に発足しました。

研究会のメンバーは、遠賀川下流域の中間市、岡垣町、遠賀町、水巻町、芦屋町の教育関係者(教育委員会および小学校教諭)、北九州市上下水道局、福岡県北九州県土整備事務所の職員で構成し、年間を通じて小学校の「総合学習教育」に関わる研究活動を行っております。

その中で、「総合学習教育の学習題材として、地域の歴史的な河川環境などを取り上げたいが、使用できる資料が少なく、取り扱いが難しい状況にある」ということが分かりました。

その点を踏まえ、このたび授業や総合学習教育における活用を目的とした「資料集」を作成致しました。

内容については、まだまだ不十分な点もありますが、本資料集を参考にして頂き教育の充実を図っていただければと思います。

最後になりますが、本資料集から遠賀川下流域に暮らした先人たちの苦労や努力、また自然環境の大切さを知ること、地域への愛着や自然環境を大切に想う心が育まれるきっかけとなれば、幸いです。

本資料集の編集に当たっては、地域の方や各歴史資料館など多くの方々に資料提供を賜りました。心より感謝とお礼を申し上げます。

遠賀川下流域河川環境教育研究会

# わたしたちの遠賀川

—川のことを学んで、ふるさとの未来について考えよう—

## 1 【概要】 遠賀川ってこんな川

- |     |              |       |
|-----|--------------|-------|
| 1-1 | 遠賀川のあらまし     | 2ページ  |
| 1-2 | 遠賀川下流地域の川や海岸 | 10ページ |

遠賀川って、どこを流れ長さはどれくらいでしょう？  
なぜ遠賀川と呼ばれるのでしょうか？川のかたちは昔と同じでしょうか？  
—遠賀川のことについて紹介します。

## 2 【歴史】 遠賀川と私たちの暮らし

- |     |                        |       |
|-----|------------------------|-------|
| 2-1 | 遠賀川と昔の人々の暮らし<br>(遺跡など) | 20ページ |
| 2-2 | 遠賀川と石炭                 | 45ページ |

大昔の遠賀川ってどんな川だったのでしょうか？  
川のそばにはどんなものがあったかな？昔は遠賀川の近くで石炭が採れていたの？どうやって運んだのかな？  
—昔の遠賀川と人々の暮らしについて学びましょう。

## 3 【治水・防災】 洪水とのかかわり

- |     |             |       |
|-----|-------------|-------|
| 3-1 | 遠賀川の洪水      | 50ページ |
| 3-2 | 遠賀川の河川工事の歴史 | 54ページ |

遠賀川は昔も大雨が降ったら洪水になったのでしょうか？  
洪水は多かったのかな？洪水が起こっても大丈夫なようにどんな工事をしてきたのでしょうか？—遠賀川のこれまでの洪水と洪水からふるさとを守るための工事について紹介しています。

## 4 【環境】 遠賀川の水、生き物たち

- |     |         |       |
|-----|---------|-------|
| 4-1 | 遠賀川の水質  | 64ページ |
| 4-2 | 遠賀川の水利用 | 68ページ |
| 4-3 | 遠賀川の生き物 | 74ページ |

遠賀川の水はきれいかな？川の水のきれいさって、どうやって調べるのでしょうか？川の水はどこで取っている？遠賀川にはどんな生き物が住んでいるのかな？

—遠賀川の水を使うことや生き物たちについて紹介しています。

## 5 【新たな関わり・利活用】 遠賀川と私たちの未来

- |     |           |       |
|-----|-----------|-------|
| 5-1 | 遠賀川とサケ    | 84ページ |
| 5-2 | 遠賀川での取り組み | 86ページ |

遠賀川に鮭が来ることを知っていますか？どうやって来るのでしょうか？鮭やたくさんの生き物たちを守ったり、みんながもっと利用しやすい遠賀川にするためにどんな活動がされているのかな？

—遠賀川と私たちの暮らしの未来について考えましょう。

遠賀川には、たくさんの歴史がありたくさんの生き物が住んでいます。  
遠賀川と私たちの暮らしのつながりを学びながら、  
ふるさとの未来について、みんなで考えましょう。

# 【もくじ】

## 1【概要】遠賀川ってこんな川

|                     |    |
|---------------------|----|
| 1-1 遠賀川のあらまし        | 2  |
| (1) 遠賀川の概要          | 2  |
| (2) 現在の人との関わり       | 3  |
| (3) 遠賀川流域の気候と自然環境   | 4  |
| (4) くらべてみる          | 5  |
| (5) 大昔の遠賀川          | 6  |
| (6) 氷河期が終わってからの遠賀川  | 6  |
| (7) 江戸時代初期【黒田長政の時代】 | 8  |
| (8) 名前の由来           | 9  |
| (9) 支川の名前の由来        | 9  |
| 1-2 遠賀川下流域の川や海岸     | 10 |
| (1) 堀川              | 11 |
| (2) 曲川              | 13 |
| (3) 戸切川             | 15 |
| (4) 江川              | 16 |
| (5) 汐入川・矢矧川         | 17 |
| (6) 芦屋港と海岸          | 18 |

## 2【歴史】遠賀川と私たちの暮らし

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 2-1 遠賀川と昔の人々の暮らし（遺跡など）    | 20 |
| (1) 旧石器時代の遠賀川下流           | 20 |
| (2) 「広大な干潟」だった遠賀川下流と縄文遺跡群 | 21 |
| (3) 遠賀川下流の縄文遺跡のひみつ        | 22 |
| (4) 山鹿貝塚の人骨は語る            | 23 |
| (5) 遠賀平野で米づくりがはじまった       | 25 |
| (6) 遠賀川川床から発見された砂山遺跡      | 26 |
| (7) 磨製石剣のふるさと遠賀平野         | 27 |
| (8) 遠賀川式土器のふるさと立屋敷遺跡      | 28 |
| (9) 遠賀平野の大型古墳             | 29 |
| (10) 遠賀川河口と古代山鹿氏          | 30 |
| (11) 遠賀川河口で作られた芦屋釜        | 32 |
| (12) 江戸時代前後の遠賀川と洪水        | 34 |
| (13) 堀川の歴史を探る             | 35 |
| (14) 遠賀川下流の村と享保の大飢饉       | 37 |
| (15) 遠賀川下流の村むらを救った偉大な発明   | 38 |
| (16) 三里松原の植林              | 39 |
| (17) 一部が伐採されてしまった三里松原     | 41 |
| (18) 再び伐採された三里松原          | 42 |
| (19) 緑の松原と青い海をとりもどそう      | 43 |
| 2-2 遠賀川と石炭                | 45 |
| (1) 「石炭」って何だろう？           | 45 |
| (2) 「石炭」の発見               | 46 |
| (3) 近代発展を支えた石炭と遠賀川        | 47 |

## 3【治水・防災】洪水とのかかわり

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 3-1 遠賀川の洪水              | 50 |
| (1) 遠賀川の洪水の歴史           | 50 |
| (2) 昭和28年洪水             | 51 |
| (3) 昭和55年洪水・平成になってからの洪水 | 52 |
| (4) 洪水後のゴミ問題            | 53 |

|                 |    |
|-----------------|----|
| 3-2 遠賀川の河川工事の歴史 | 54 |
| (1) 遠賀川の河川工事の歴史 | 54 |
| (2) 第一期河川改修工事   | 55 |
| (3) 第二期河川改修工事   | 56 |
| (4) 治水・利水施設の建設  | 57 |
| (5) 遠賀川河口堰の建設   | 58 |
| (6) 河川改修工事の効果   | 59 |
| (7) 平成になってからの工事 | 60 |

## 4【環境】遠賀川の水、生き物たち

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 4-1 遠賀川の水質              | 64 |
| (1) 遠賀川の水質              | 64 |
| (2) 水質の調べ方              | 65 |
| (3) 水質を測ってみよう           | 66 |
| (4) 水をきれいにする取り組み        | 67 |
| 4-2 遠賀川の水利用             | 68 |
| (1) 水とわたしたちの暮らし         | 68 |
| (2) 川からの取水              | 69 |
| (3) 水道水ができるまで           | 70 |
| (4) 水道水が家庭にとどくまで        | 72 |
| (5) 遠賀川の水を大切に利用するために    | 73 |
| 4-3 遠賀川の生き物             | 74 |
| (1) 遠賀川下流域の生き物の概要       | 74 |
| (2) 外来種って何？             | 75 |
| (3) どういったところに生き物はいるのかな？ | 76 |
| (4) 魚にやさしい川ってどんな川？      | 79 |
| (5) 生き物の指標の紹介           | 80 |

## 5【新たな関わり・利活用】遠賀川と私たちの未来

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 5-1 遠賀川とサケ              | 84 |
| (1) サケを呼び戻そう            | 84 |
| (2) 遠賀川河口堰魚道について        | 85 |
| 5-2 遠賀川での取り組み           | 86 |
| (1) 遠賀川流域宣言             | 86 |
| (2) 遠賀川流域の住民活動          | 86 |
| (3) 流域のゴミ問題             | 88 |
| (4) 河川環境学習について          | 90 |
| (5) 遠賀川下流域河川環境教育研究会について | 92 |

## 【その他】

|                                  |     |
|----------------------------------|-----|
| 1 遠賀川河川事務所からのお知らせ<br>～大雨・洪水への備え～ | 94  |
| (1) 防災に関する情報を調べてみよう              | 94  |
| (2) 災害時の豆知識                      | 95  |
| (3) その他                          | 97  |
| (4) 防災に関する情報                     | 100 |
| 2 遠賀川下流域にある資料館など                 | 101 |
| 3 参考にした資料及び提供一覧                  | 101 |
| 4 航空写真                           | 102 |

# 第1章

## 【概要】

# 遠賀川ってこんな川

1-1 遠賀川のあらまし

2ページ

1-2 遠賀川下流地域の川や海岸

10ページ

遠賀川って、どこを流れ長さはどれくらいでしょう？

なぜ遠賀川と呼ばれるのでしょうか？川のかたちは昔と同じでしょうか？

—遠賀川のことについて紹介します。

# 1 遠賀川ってこんな川

## -1 遠賀川のあらまし

おん が がわ

遠賀川は、どこから流れていて、人は、何人住んでいるかな？

いくつもの小さな川が集まって、大きな川になっています。

その川には、いくつの川が合流しているかな？色々なことについて調べてみよう。



### (1) 遠賀川の概要

遠賀川は、福岡県の筑豊地区から北九州市・中間市・遠賀郡を流れる一級河川です。源流は、福岡県嘉麻市馬見山にあり、響灘に注いでいます。

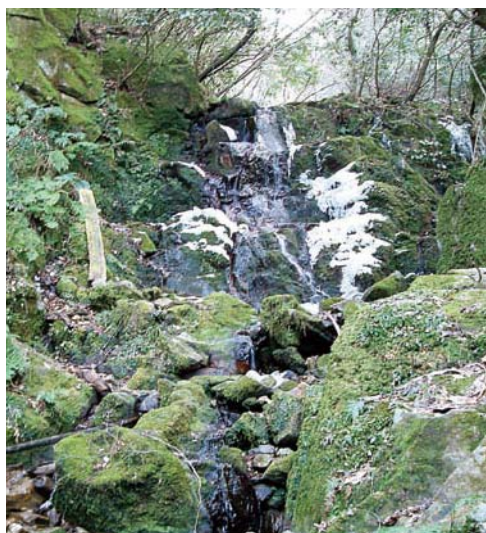
流域の市町村は7市14町1村があり、その人口は約63万人（平成17年 河川現況調査）です。英彦山、福智山など四季の風景に恵まれた豊かな自然環境にあります。

このため、古くから遠賀川は、治水・利水・環境面において、地域に重要な役割を担っており、福岡県北部及び筑豊地区の社会・経済・文化の基盤をなすとともに、古来からの稲作文化や日本の近代化を支えた石炭産業など、人々の生活、文化と深い結びつきを持っています。

【支川】とは… 大きな川（本川）に流れ込んでいる小さな川。

【一級河川】とは… 国土交通大臣が国土保全上または国民経済上、特に重要として指定した水系。「河川法第四条第一項の水系を指定する政令」に基づき、全国で109水系が指定されています。

遠賀川を管理しているところはどこかな？調べてみよう



遠賀川の源流（始点）



遠賀川の河口（終点）



遠賀川の上流



中流



下流

## (2) 現在の人との関わり

遠賀川は、いくつもの川が集まり、その周辺には多くの方が生活しています。

流域内の人口密度は高く、約620人/km<sup>2</sup>です。これは九州の一級河川の中では第1位です。

それだけ川と人との密接度が高い地域です。いいかえると、ひとたび川がはん濫すると、大きな被害を受ける可能性が高いともいえます。

流域の土地利用は、山地等が約80%、水田や果樹園等の農地が約14%、宅地等市街地が約6%となっています。

流域の土地利用の特徴としては、北九州市に隣接する中間市や水巻町は北九州市のベッドタウンとして、また、福岡市への通勤圏に位置する飯塚市周辺では福岡市のベッドタウンとして宅地開発が進んでいます。

【流域】とは… 遠賀川など川の流れに沿って広がっている地域。

住んでいる町の人口密度と比べてみよう



# 1-1 遠賀川のあらまし



三郡山地



福智山



英彦山

## (3) 遠賀川流域の気候と自然環境

### 気候

ほぼ全域が日本海型気候区に属しています。この気候の特徴は、年平均気温が15～16℃で、年平均降水量は2,100mm 前後となっています。

また、年間の降雨量の60%が梅雨時に集中しており、洪水被害もその時期に多く発生しています。

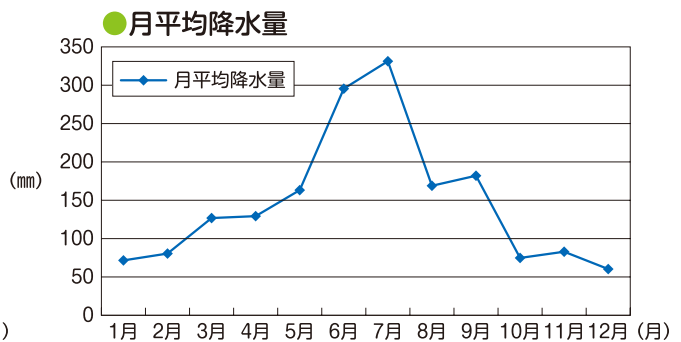
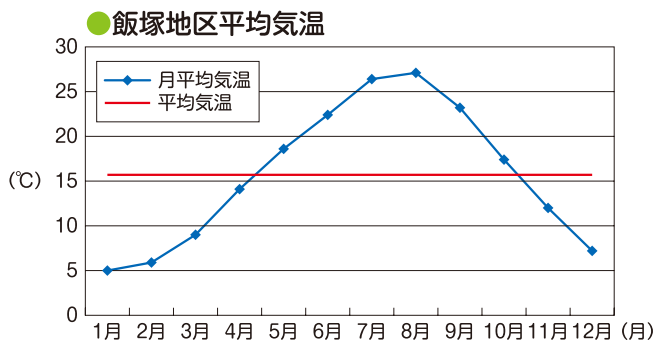
### 自然環境

三方を福智山地、英彦山地、三郡山地といった国定公園や県立自然公園に指定された山々に囲まれ、四季の彩りが多彩な渓谷など豊かな自然環境に恵まれています。

その一方で、流域内で一番大きな支川である彦山川は、合流してくる川のほとんどが急流であるため、大雨の際には短時間で洪水を起こしやすいという怖い一面も持っています。

古くから遠賀川流域は洪水の被害に見舞われており、最近では、平成15年7月に飯塚・直方地区で大きな洪水被害が発生しました。

また、水質悪化やゴミ問題など解決しなくてはならない大きな課題もあります。これについても地域の方々や、関係機関と連携して、流域の子ども達が心豊かに育つような川の環境づくりや、地域の方々の協力による清掃・除草活動などを通じて解決につなげていけるように取り組んでいます。



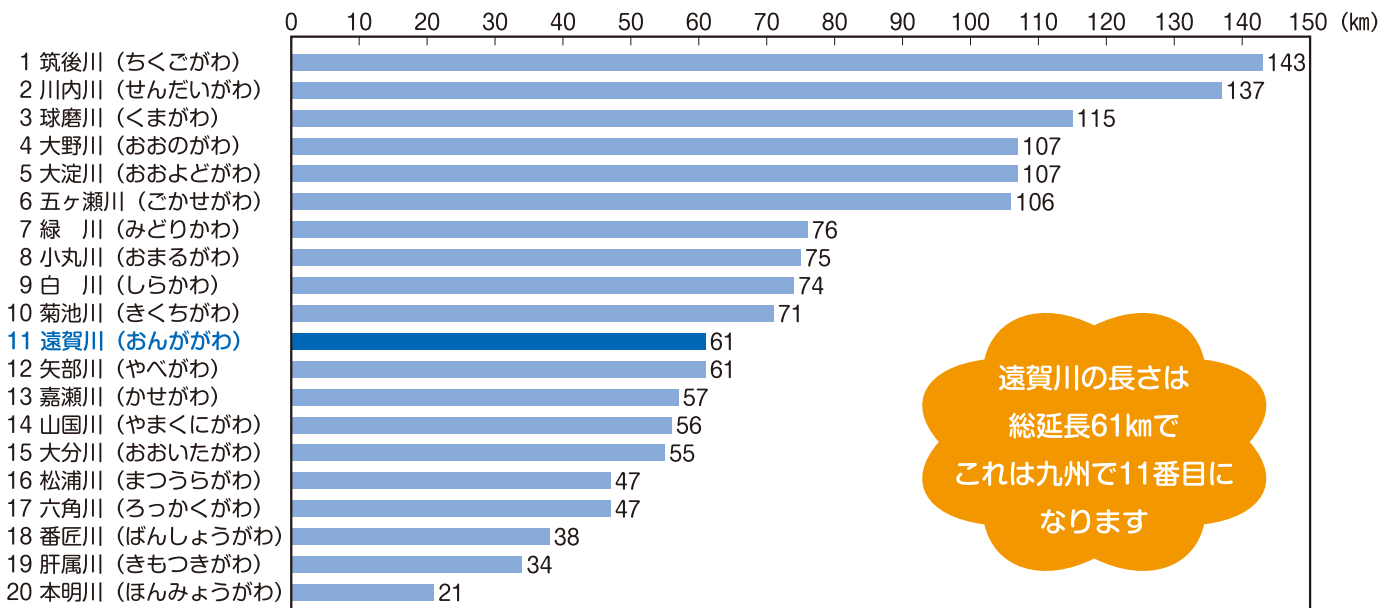
気象庁より (1981年-2010年平均)

季節の様子を調べてみよう。写真を撮ったりしよう。

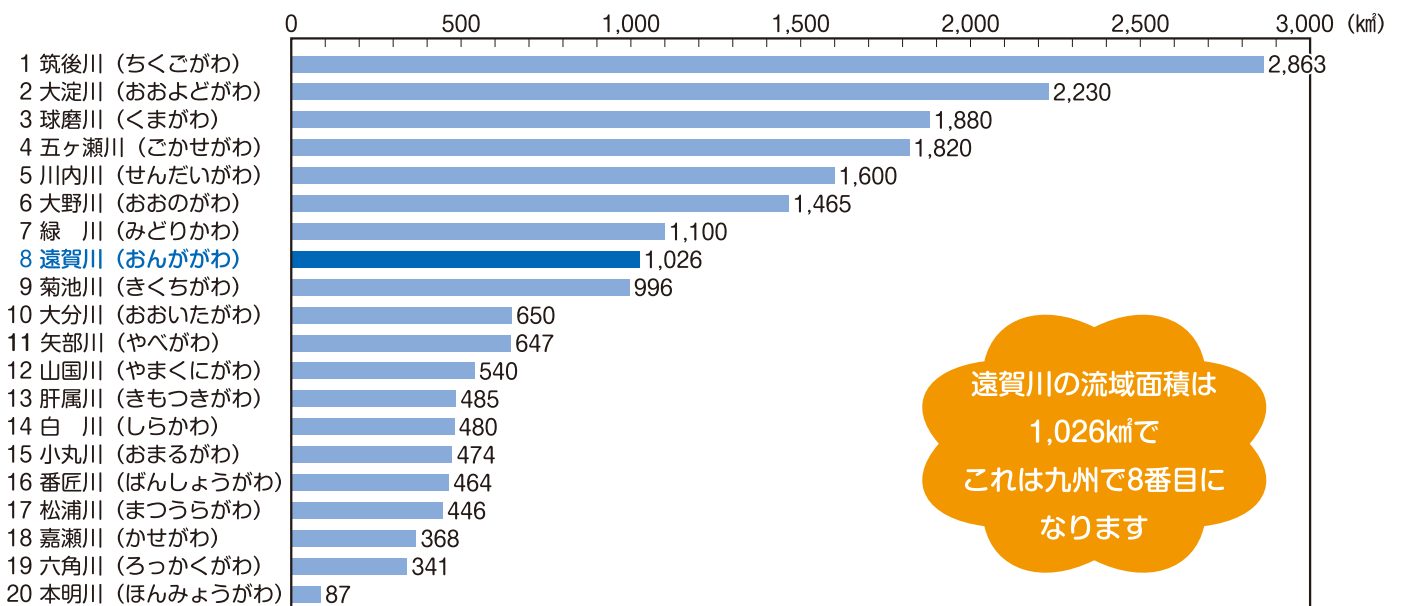
## (4) くらべてみる

遠賀川は、九州内の一級河川では、真ん中ぐらいの大きさです。

### ●九州内一級河川（20水系）の幹川流路延長（川の長さ）



### ●九州内一級河川（20水系）の流域面積



九州だけでなく全国の一級河川ともくらべてみよう

# 1-1 遠賀川のあらし

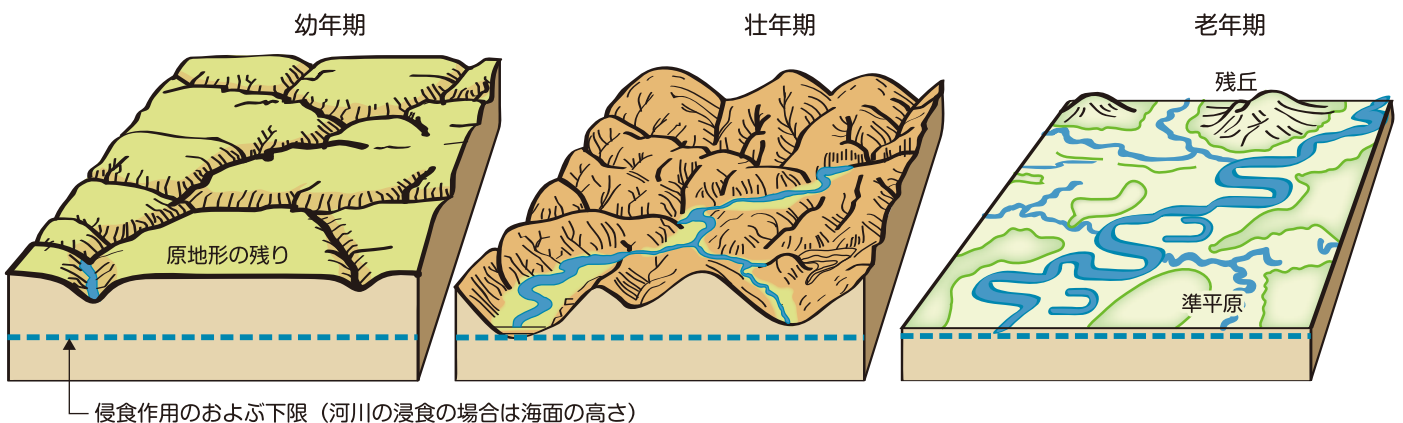
## (5) 大昔の遠賀川

遠賀川の周囲には、高さ900～1,000mの山地が連なっており、流域の境をつくっていました。これらの山地は地殻変動によって、中生代後半（約1億年前）に長い期間をかけて隆起してできた山地といわれています。

その後、新生代古代三紀（4,000～5,000万年前）に一部が沈降して海水が入り海となり、その後また隆起して淡水になったりして、その時に遠賀川流域に大森林地帯が出現しました。

やがて、その大森林地帯は埋没し、筑豊炭田の石炭となります。

その後、100～60万年前までに、この地域で一番高い英彦山が誕生しました。この後は、暖かい気候と寒い気候を繰り返す氷河期（100万年～1万年前）となり、現在の遠賀川の流れや地形の大部分が形成されました。



## (6) 氷河期が終わってからの遠賀川

氷河期が終わると海面の上昇がはじまり、川沿いに海水の浸入が始まりました。

河口から数キロ上流までが湾となり、河川は氾濫により土砂が溜まり平野部が形成されました。

遠賀川の河口は、貝塚などの遺跡から現在よりもはるか上流の直方市、小竹町であったと考えられています。

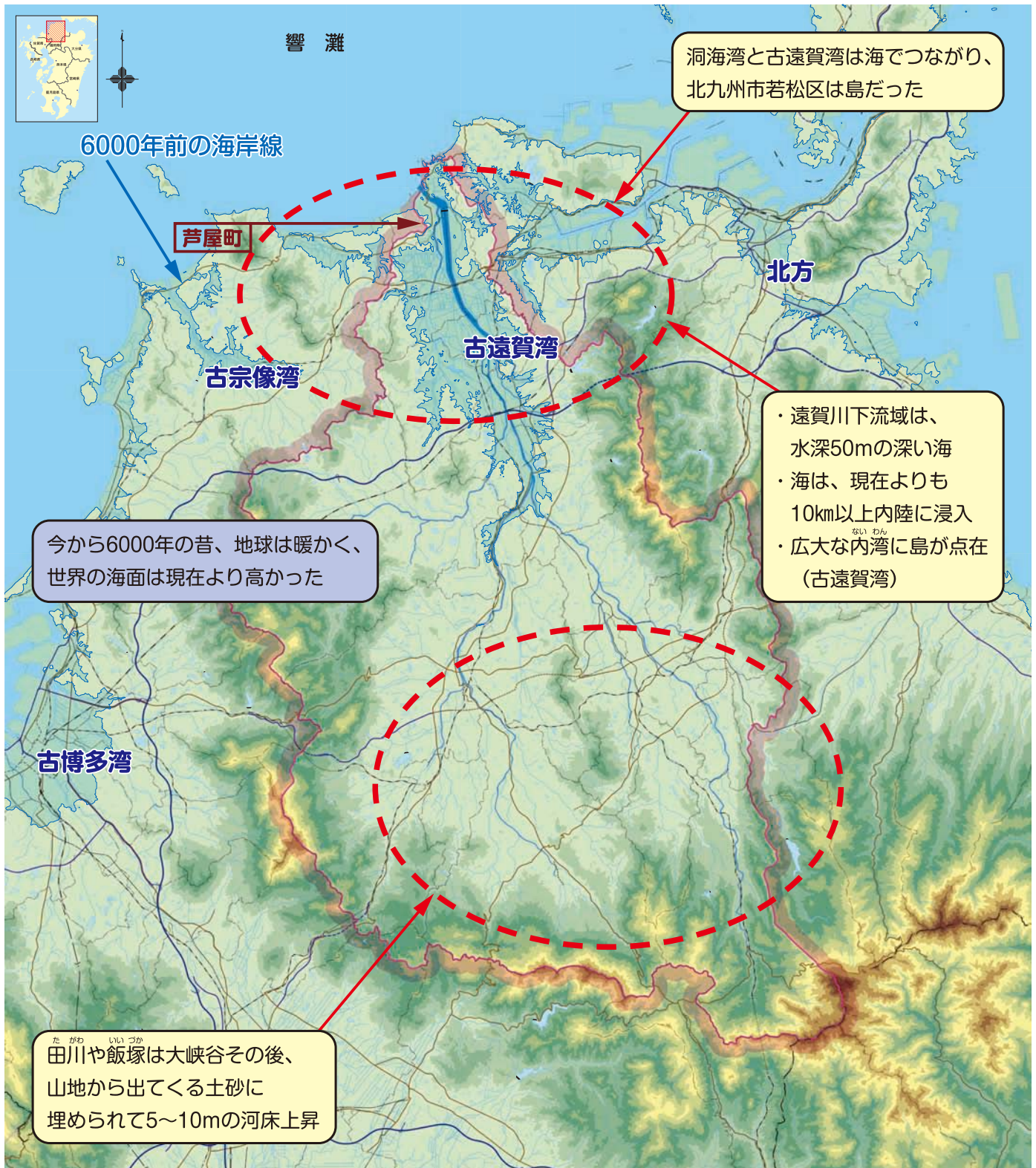
また、遠賀川流域では、弥生時代（紀元前3世紀頃から3世紀頃）の初期の土器である遠賀川式土器が発見され、北九州から伊勢湾地域まで広い範囲に分布しています。そのほか、全国でも貴重な古代時代の遺跡が数多く見つかっています。



遠賀川式土器

昔の地層を見たり、海岸線の位置を確認してみよう

●大昔の遠賀川流域<sup>りゅういき</sup>



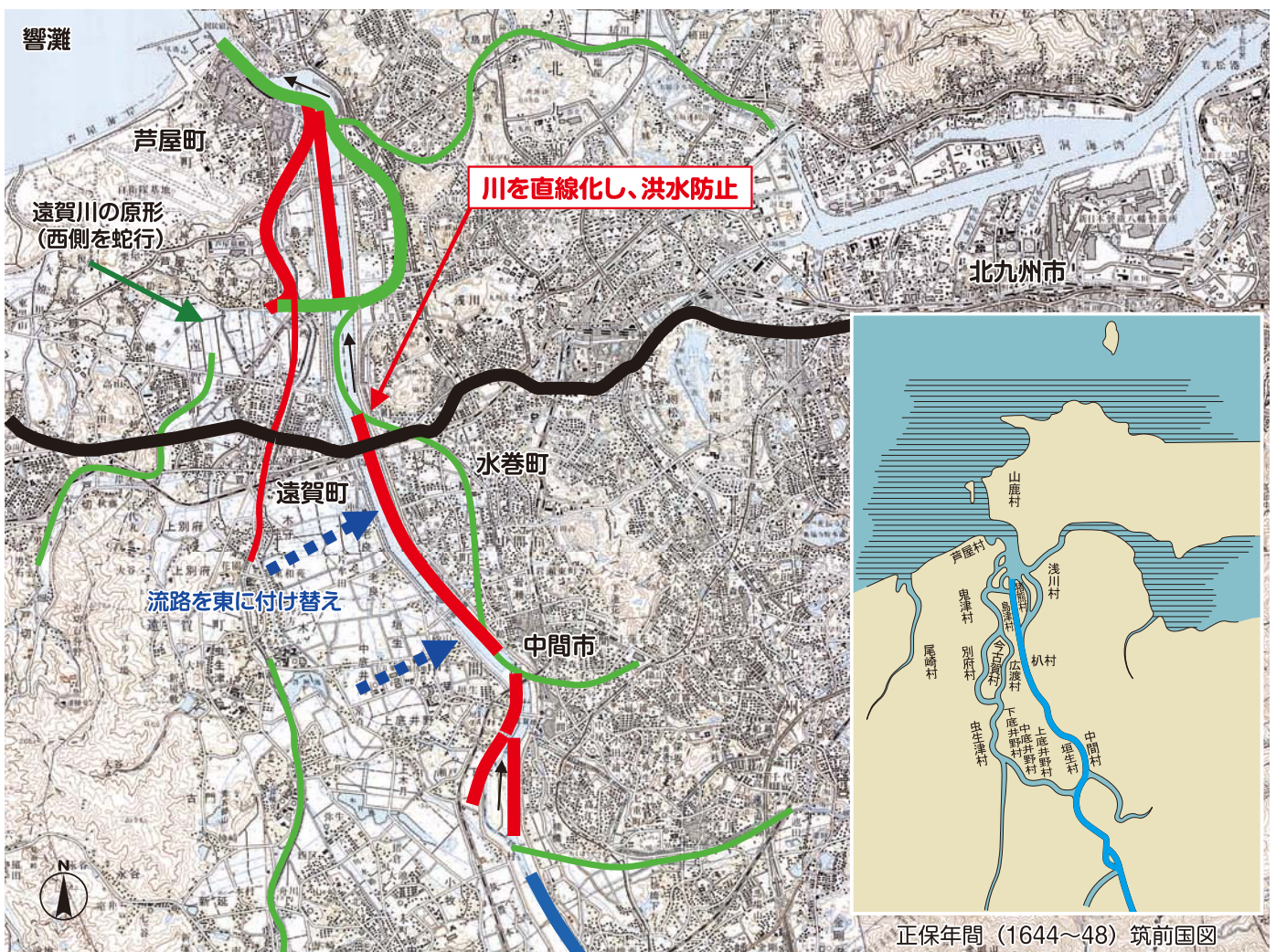
海岸線ライン標高5mで国土交通省作成 (貝塚遺跡位置などにより想定)

📖 関連する内容を21ページでも紹介しています。

# 1-1 遠賀川のあらまし

## (7) 江戸時代初期【黒田長政の時代】

黒田長政が筑前国を与えられた江戸時代初期の遠賀川は、曲がりくねった暴れ川（雨が降ったりするとすぐはん濫する川）でした。黒田藩は、現在の小竹町から河口までの大工事を計画し、工事を行いました。筑前国黒田藩政時代の工事によって現在の遠賀川の形がつけられました。



「この地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図（折尾、小倉、直方、行橋）を使用したものである。」

関連する内容を34ページでも紹介しています。

筑前国黒田藩政時代の工事について調べてみよう

## (8) 名前の由来

遠賀川の由来の前に、なぜ「遠賀（オンガ）」と呼ばれるようになったのでしょうか。

「古事記」の時代には、「岡」と呼ばれ、これを「遠賀」と改めて、「オンガ」と呼ばれるようになったようです。

このように、遠賀川も時代や地域により呼ばれ方が、変わってきています。

遠賀川下流の遠賀郡では、御牧郡と呼ばれていた時代に「御牧川」と呼ばれていたようですが、今から300年ほど前に作られた風土史「筑前国続風土記」の中では、既に「遠賀川」の名称は記載されており、江戸時代から「遠賀川」と呼ばれていたようです。

また、現在の遠賀川は、源流から下流までをすべて遠賀川と呼びますが、遠賀川上流の嘉飯山地区の明治20年の地図には、「嘉麻川」と表示されていますし、古い記録には、「直方川」と呼ばれていたという記録もあります

その他にも、冷たい水の川なら氷川や平らな土地を流れる川は、平川など、川の特徴を名前にした川や神社仏閣などを由来にした名前も数多くみられます。

川の名前は、単なる記号ではなくて、その川の特徴や地域に住んでいる人々の生活や歴史などとも深い関係があること分かります。

川の名前の由来を調べたり、大昔の流れている川の姿やそこに住む人々の暮らしを思い描いてみてみよう。

(注意※遠賀川の名称には諸説あります。必ずしもこの説明が正しいとは限りません)

「新・川なぜなぜおもしろ読本」株式会社建設技術研究所 より



## (9) 支川の名前の由来

遠賀川の支川の名前には様々な由来があります。

### 神社・仏閣に由来のある川

・中元寺川 (中元寺)、大分川 (大分八幡宮)、千手川 (千手寺)、御杖川 (香春神社) 等があります。

### 地形的に由来のある川

- ・犬鳴川 (犬とは低くて狭い土地、鳴は、川音がする意味)
- ・八木山川 (ヤギとは山間の狭い土地の意味)
- ・泌川 (七十五石地区などの大きな田所を切って流れる意味)
- ・金辺川 (銅が流れている土地の意味)

身近な川の名前の由来も調べてみよう

# 1 遠賀川ってこんな川

## -2 遠賀川下流地域の川や海岸

●遠賀川下流地域の川や海岸位置図





寿命唐戸



中間唐戸



中間唐戸付近（明治後期）



河守神社

## (1) 堀川

堀川は遠賀川より分かれて、中間市、水巻町をとおる、北九州市で洞海湾へ流れ込む河川です。

堀川が出来る前の遠賀川は、大雨のたびにあふれていました。そこで江戸時代初期に、農業用水の確保とはん濫を防ぐため、遠賀川の水を洞海湾へ分ける計画が持ち上がりました。

1621年、筑前福岡藩（黒田藩）初代藩主、黒田長政が堀川運河の工事をはじめました。工事は現在の間中市から分かれ、吉田（貴船神社の裏山付近）を抜け、八幡西区折尾までのルートで行われ、直接指揮したのは家老の栗山大膳でした。しかし、吉田と折尾の間は地質が悪く、水がわき出て難工事となり、工事は中止になりました。

工事が再開されたのは1751年、6代藩主 黒田継高の時でした。ルートも大膳堀から吉田車返しを通るように変更されましたが、ここは岩盤が多く工事は困難を極めました。この時の工事の苦勞をしのばせる跡は、今でも吉田の河守神社近くの岩壁に見ることができます。そして1762年、金山川へ繋がり、ついに堀川運河は洞海湾まで開通しました。

堀川運河ができるまでは、遠賀川流域でとれた農産物や材木、石炭などは船で遠賀川を下り、芦屋や若松方面に運ばれていました。



## 1-2 遠賀川下流地域の川や海岸



くるまがえし きりめき  
車返の切貫



車返の切貫（明治中期）



堀川のモニュメントと折尾駅（2011年10月）



しんしんほりかわはいすい きじょう  
新々堀川排水機場

しかし、堀川運河ができてからは、航行日数が少なくてすむこともあって、堀川を利用することが多くなりました。特に、筑豊地域で石炭が多く掘られるようになってからは、その石炭を若松港まで運ぶ船にとって、堀川は重要な輸送路となりました。そこで活躍したのが別名「五平太船」とも呼ばれていた「川ひらた」という船です。

その後、1891年（明治24年）若松・直方間に鉄道が開通し、鉄道の方が輸送時間が短いことや運賃が安いことなどから、川ひらたの数も急激に減っていきました。1938年（昭和13年）を最後に、200年近く続いた堀川の水運が歴史の幕を降ろすことになりました。現在でも川沿いには、それを証明する多くの史跡が今なお残っており、堀川そのものが貴重な歴史的文化遺産といえます。

昭和になると流域の急激な市街化がすすみ、川幅が狭く、川の勾配が小さいことや、潮位の影響で河川の流下を阻害される事から、頻繁に浸水被害が発生していました。このため、1972年（昭和47年）から1986年（昭和61年）にかけて新々堀川排水機場が整備され、完成後は大きな浸水被害は発生していません。

また、堀川は、九州・山口の石炭産業発展の歩みを物語る近代化産業遺産群のひとつとして、2007年（平成19年）11月30日、経済産業省より近代化産業遺産に認定されました。

☞ 関連する内容を35ページでも紹介しています。

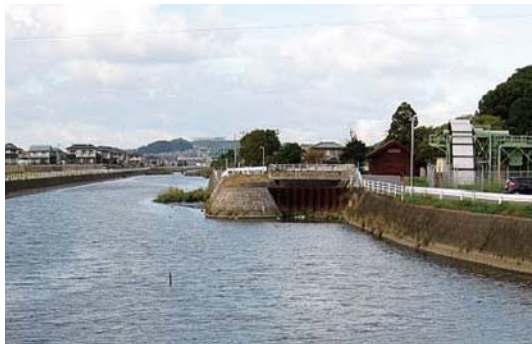
現在の堀川～新々堀川について詳しく調べてみよう



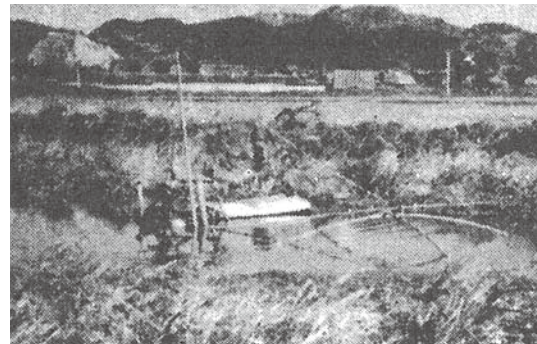
上空から見た曲川



昔と今の曲川



曲川 (左) と岩瀬揚水機場 (右)



川魚漁の様子 (古賀と猪熊の境付近)

## (2) 曲川

昔の曲川は、中間市の通谷池から水巻町を曲がりくねって流れ、杵で遠賀川に合流していました。しかし、遠賀川の堤防をつくる工事を延享元年（1744年）に始めたとき、杵から古賀、猪熊への流れをつくり、若松から流れてきた江川と合流させて、遠賀川の河口へ流れるようにしました。

当時は曲川でもフナ、ウナギ、ナマス、コイなどの川魚をとっていました。秋祭りのときには、川をせき止めて干し、捕まえた魚を持ち帰って食べていました。また川の中に生える藻や川の泥を田に入れて、肥料にしていました。

明治時代になり、石炭を掘るようになってからは、石炭などを運ぶ水路としても利用されるようになりました。掘り出したばかりの石炭を石や土と選別するため、川で洗ったので細かい石炭の粉が落ち、川底に積りました。

## 1-2 遠賀川下流地域の川や海岸



中央は曲川の鯨瀬排水機場



曲川の机排水機場



下二束付近

その積もったものを「どべ炭<sup>たん</sup>」といい、この「どべ炭」を家に持ち帰り、平たい形に固めてかわかしました。これを小さく割り「たどん」のように家庭燃料として、ご飯を炊いたり料理をしたり風呂を沸かし<sup>わ</sup>たりするの<sup>に</sup>利用しました。

石炭を掘るにつれて、川の周りの地面が下がり始め（地盤沈下）、川底には「どべ炭」が厚く積もるようになったため、大雨が降ると川の水がたびたびあふれていました。

このため、昭和23年に机排水機場<sup>えぶりはいすい きじょう</sup>（ポンプ場）が造られ、昭和27年には、田を整理して曲川の川幅<sup>はば</sup>を広げ、曲がりくねっていた川がまっすぐに改修されました。さらに川の水があふれないようにするため、昭和52年には伊左座<sup>い さ ざ</sup>に曲川排水機場、昭和59年には水巻町猪熊<sup>みず まき まち いの くま</sup>に鯨瀬排水機場<sup>くじら せ</sup>が造られ、こうした洪水の被害は少なくなりました。

曲川について詳しく調べてみよう



上空から見た戸切川



河川改修後の状況



戸切川平面図

### (3) 戸切川

戸切川は遠賀郡岡垣町の南約3kmに位置する戸田山にその源流を発し、遠賀町のほぼ中央部を流れて、西川に流れ込んでいます。周囲は広大な水田地帯でしたが、戸切川は川幅が狭く、たびたび多大な被害を被ってきました。一方、流域の急激な都市化にともなう人口増加により、近年は宅地化が進んでいます。

このような状況の中、戸切川では川幅を拡げたり、川底を掘り下げるなどの改修工事を行い、川の水が安全に流れるようにしています。また、景観に配慮した護岸や水辺への階段を設け、川沿いの公園と一体的な整備が行われています。人と自然がふれあえるような空間をつくるとともに、生物にとって良好な生息環境を生み出す川づくりが実施されています。

戸切川について詳しく調べてみよう

## 1-2 遠賀川下流地域の川や海岸



上空から見た江川



河川改修に伴うJR橋（若松線）の架け替え



江川平面図



汐分地蔵

### (4) 江川

江川は、西は芦屋町山鹿の遠賀川から、東は北九州市若松区二島の洞海湾まで、主に八幡西区と若松区の区境を流れています。全区間で潮位の影響を受ける河川であり、満潮が近づくとつれて潮が東西から満ちあい、その後は大鳥居の正ノ江付近で両方に引いていきます。満ち潮の出あうところに、汐分地蔵という地蔵尊が祀られ、人々の信仰を集めています。

黒田藩政時代、遠賀川を下った「川ひらた」（別名「五平太船」）という船は、芦屋から江川を通過して若松に筑豊の米などを輸送し、また明治時代には石炭などを輸送していました。

近年、北九州市の近郊住宅地として、流域の都市化が進み、雨天時の流量が増大しています。また江川沿いの区域で「北九州学術・研究都市整備事業」による大規模開発が進められており、将来にわたって川の水があふれないように江川を改良する工事が行われています。

工事にあたっては、人と自然がふれあえるような空間をつくるとともに、周辺の街並みと調和した川づくりを目指し、整備が進められています。

どこで海水がぶつかるかな？ 汐分地蔵を見てみよう



小学生たちの河川学習（汐入川）



海老津駅上流域 夏は蛍が見られる（矢矧川）



正矢口橋付近から上流を望む（汐入川）



駅前広場近くの河川整備状況（矢矧川）

## (5) 汐入川・矢矧川

汐入川は岡垣町西方の孔大寺山の山裾に源流を発生し、上高倉地区から東方に広がる扇状地を流れ、高倉神社付近から北へ向きを変えて響灘へと注いでいます。

昔は堤防の決壊など、川がはん濫するような洪水被害がたびたび起きていましたが、川幅や堤防を広げる工事が行われたのちは被害も少なくなり、さらに平成8年度からは郷土の水辺整備事業を行い、周辺環境との調和を図りながら、人々が豊かな自然・水辺とふれあう親水空間づくりと自然環境の保全が図られています。

矢矧川は岡垣町と宗像市の境にある城山のふもとから、JR海老津駅の近くを流れて、岡垣町の住居地域をとおり、平野部を北に流れて芦屋町との境界に近い響灘へ注いでいます。

近年は、かつてのような清流を取り戻すための清掃活動や、サケの稚魚を放流したり、ホテルの生息地を守るなどの自然保護活動も行われていたり、駅前広場までの川沿い両側はインターロッキングで歩道を舗装するなど、環境や景観に配慮した河川整備が進められています。

汐入川、矢矧川についていろいろ調べてみよう

## 1-2 遠賀川下流地域の川や海岸

### (6) 芦屋港と海岸



三里松原周辺の海岸

#### 芦屋港

芦屋港は、もともと遠賀川の河口港で、かつては遠賀・筑豊地方の大部分の荷物の発着地として、米穀、石炭、その他農水産物の積み出し港として栄えました。

昭和50年に福岡県が港湾管理者となり、地方港湾の指定を受け、港湾施設の整備を進めて、昭和61年新たな岸壁と野積場が完成しました。平成14年には、なみかけ大橋が完成し、国道495号から芦屋港へつながる道路とあわせ、近海漁業の基地や地域の物流拠点として、利用されています。



芦屋港

#### 海岸

新松原海岸から浜崎海岸にかけての海岸は延長約8kmで、そのほとんどが玄海国定公園に指定され、白砂青松の美しい景観が続く海岸線をなしています。三里松原のクロマツ林は福岡県最大の延長約6km、面積約430haで、白砂青松100選のひとつとなっており、三里松原一帯の海岸はアカウミガメの産卵地としても有名です。また、芦屋町北部の夏井ヶ浜には九州の北限と言われるハマユウの群生地があります。

沿岸は、日本海からの冬期波浪が激しく、昔は台風や冬期波浪による災害復旧を目的とし、主として護岸の整備等が行われてきましたが、近年は「海岸法」に基づき計画的に侵食や越波・波浪被害に対して人工リーフや突堤などの整備が進められ、海水浴場や海浜公園、サイクリングロード等の整備も行われました。

古くは江戸時代より植林されてきた三里松原を守り、松の生育をよくするために、地元の協議会が主となって、雑木の伐採や地表に積もった松葉やコケを取り除く活動を行ったり、町内外から大勢の人たちが海岸に集まり、清掃を行う活動も毎年盛んに行われています。

将来の海岸についていろいろ思い描いてみよう